



Mar. 2026 Vol. 284

東京都中央区日本橋本町4-9-2 本栄ビル9階 <https://www.jfa-tanzo.jp>
TEL 03(5643)5321 FAX 03(3664)6470 e-mail: forging@jfa-tanzo.jp

一般社団法人日本鍛造協会
編集発行 広報委員会

第2弾

令和7年度人材育成事業 受講生募集のご案内

■□ 自社でできる設備保全技術研修 □■

ねらい

生産活動に欠かせない機械設備を安心して使えるように維持するには、点検箇所をはじめ交換のタイミング、潤滑や締結などに対する正しい知識と技能が求められる。そのため、工具の使い方等、基礎的な要素を学んだ上で、実機での実践教育を行い、トラブル（故障）を避けるための保守、点検、予防方法を学び、ゼロ故障管理を習得する。更に、グループワークや議論することで、保全士同士の交流を図る。

めざすところ

設備が壊れてからでは遅い

壊れる前に直せる保全士

受講資格：保全業務経験者とする。

ただし、経験年数は問わない。

会場：高度ポリテクセンター

(千葉市美浜区若葉3-1-2)

定員：20名（最少催行人数：10名）

受講料：154,000円（税込み）/名

申込み〆切り：4月17日（金）

日程（予定）：

	開催日	内容
第1回	5/20(水)～21(木)	締結
第2回	6/10(水)～11(木)	電動機周りのメンテナンス方法
第3回	7/ 8(水)～ 9(木)	空気圧装置のメンテナンス方法
第4回	9/ 9(水)～10(木)	油圧装置のメンテナンス方法
第5回	10/ 7(水)～ 8(木)	生産現場に必要な管理手法

詳細は当協会HP (<https://www.jfa-tanzo.jp>) をご覧ください。

令和7年度工場見学会を開催

去る3月2日(火)～3日(水)に、令和7年度工場見学会を開催しました。見学先は、株式会社近江鍛工株式会社 信楽工場（滋賀県甲賀市）、株式会社ゴージャス（滋賀県湖南市）、株式会社ISS山崎機械（滋賀県湖南市）で、27社38名が参加しました。

また、3月2日は工場見学後、琵琶湖ホテルにおいて交流会を開催しました。見学を受け入れていただきました企業様、当日お世話になりましたご担当者様に改めて御礼申し上げます。

工場見学会の詳細は、広報誌JFA94号（4月）に掲載予定です。



MANYO

ピレットシャー 30TON～1300TON

フォージングロール FR120～FR960

プレス 50TON～3000TON

アプセッター 200TON～2300TON



Tel 06-6458-0481



会期：4月15日(水)～17日(金)

会場：インテックス大阪

特別協力 鍛造加工技術フェア

INTERMOLD2026/金型展2026/金属プレス加工技術展2026に、特別協力「鍛造加工技術フェア」として、下記企業が出展します。

出展企業 11社



近江鍛工株式会社	東邦工機株式会社
岡田工業株式会社	東洋鍛工株式会社
阪村精圧株式会社	株式会社峰山鉄工所
知多工業株式会社	株式会社ミヤジマ
東福鍛工株式会社	
株式会社丸富五十嵐製作所	
KAKUTAテックフォーミング株式会社	

また、一般社団法人日本金型工業会内の組織である「かながた小町」と共に、女性社員を対象としたパネルディスカッションを予定しています。

ぜひこの機会にご来場ください。

『どうしたらいい?』

男女が一緒に働く現場のリアル

■登壇者：

モデレーター：

- ・株式会社 阪村エンジニアリング
代表取締役社長 松井 大介 氏

パネラー：

- ・東福鍛工株式会社
代表取締役副社長 田中 君枝 氏
- ・東邦工機株式会社
技術部 鍛造技術課 乾井 彩香 氏
- ・株式会社MEISEI
代表取締役社長 渡邊 裕子 氏
- ・株式会社ヤマナカゴーキン
山中 春佳 氏

■日時：4月15日(水)14:00-15:00

■内容：

男性が主流であった製造現場に近年では女性雇用の推進が進んでいます。女性の活躍は望ましいことではあるが、一方で、男女が共に働く中で生まれる悩みや戸惑い。本ディスカッションでは、女性・男性・経営側それぞれの立場から現場のリアルと向き合います。

人材育成事業報告

◆令和7年度鍛造マネージャー育成塾コース

「科目12 工場管理」実施

去る2月26日(木)～27日(金)ウインクあいち及び新東工業株式会社 幸田事業所において、2日間実施しました。

工場の管理監督者として安全や健康に配慮出来る視野を持つことを目的として、日常的な安全管理の事例やグループ演習を行いました。また、トヨタ生産方式を通じた改善の進め方の講義を行い、効率的な工場管理手法を学びました。

2日目の午後に、新東工業株式会社 幸田事業所 環境テクノロジーセンターを訪問しました。工業製品現場で発生する事故や粉塵火災を、集塵装置などを例に、工場内で働く人の健康や、安心安全な環境管理の重要性を学びました。



◆令和7年度鍛工品製造業実践型人材養成コース

「教科10 熱処理、教科11 生産管理」実施

1月27日(火)～28日(水)に名古屋国際センター(愛知県名古屋市)において、2日間実施しました。

1日目の「生産管理」の講義では、生産管理に必要な4M (Man人・Machine設備・Material材料・Method方法) から、需要予測、生産計画、工程管理、設備投資、かんぱん方式、稼働率と可動率についての考え方を学びました。

工程管理では、ワークがありグループ毎に相談しながら真剣に議論している様子がみられ、実際に作業手順書へ書き込むことで、いかに現場で簡潔に間違いなく「品質」「安全」の急所を含めた作業手順を共有するかを習得する機会を持つことができました。加えて、作業手順書に沿って円筒品の制作をチーム毎に取り組み、品質向上や原価や時間の無駄を軽減するために自ら考えるワークとなりました。

2日目の「熱処理」の講義では、熱処理は、状態図や用語が難解といわれていますが、本講座では基礎となる“鋼”についてから講義が始まり、これから熱処理を学びたい方におすすめの講座です。

講義が展開されるにつれ、鋼の組織と変態、状態図の読み方や解釈とともに、「なぜ、熱処理をするのか?」「なぜ、この温度で加熱が必要なのか?または、冷却や急冷が必要なのか?」といった熱処理における原理原則を深く理解することができる内容でした。

また、実際の現場で行われている設備や加工を画像や動画で見ることができ、テキストだけではイメージが湧きにくい焼入焼戻し加工も得心できるいい機会となりました。

